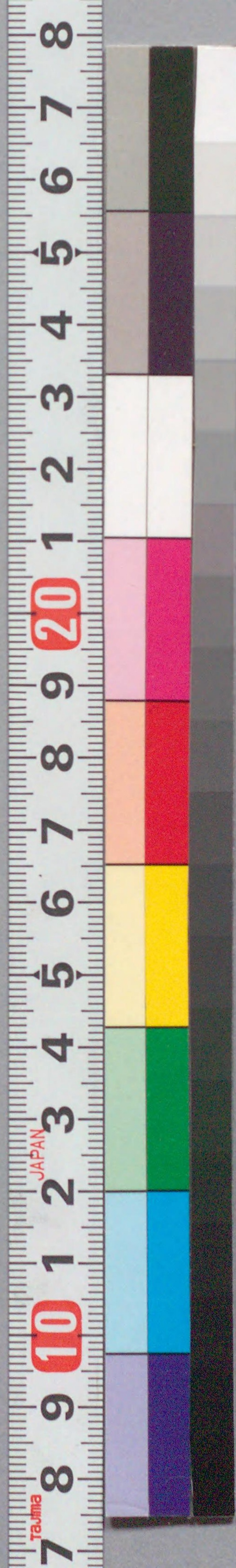


国立国会図書館 月星千葉功 : 3巻 207-14



ガラス使用

月星千葉功
はきしほりあかのいざし
女水六酉年
全三

207
持別
14

馬乳書

○



叙

下總國千葉の妙見大菩薩ハ

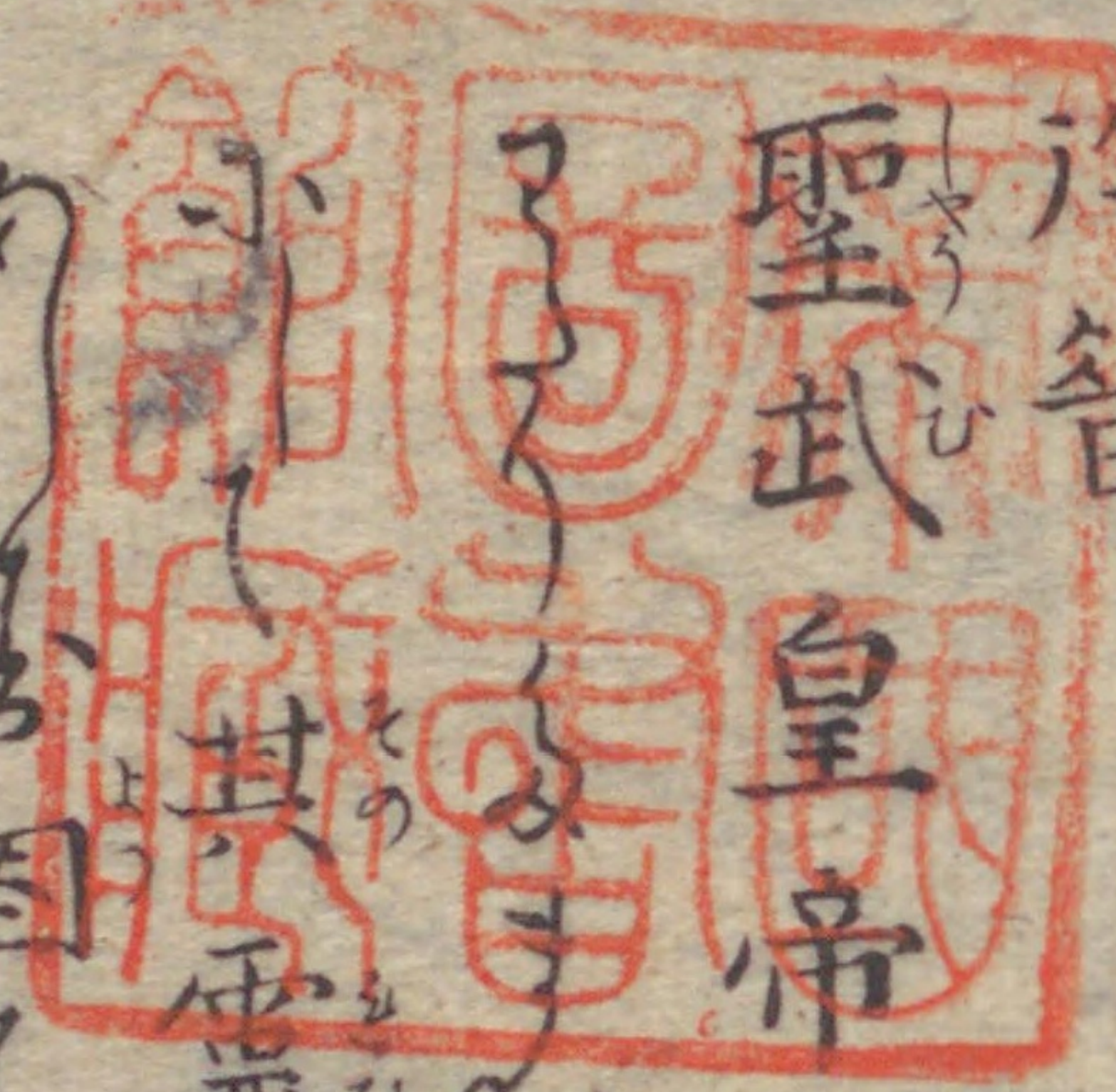
聖武皇帝ノ神亀五年（林）小秋（マ）朝（ト）

千葉氏累代（イ）地守（マ）本尊（ト）

其靈驗（イ）あげ（マ）か（ト）ふる（ト）小（ト）い（ト）は（ト）

合（イ）二（マ）の巻（ト）初（イ）春（マ）の御（ト）多（ト）く（ト）

そのふ（イ）る（マ）而（ト）已（ト）

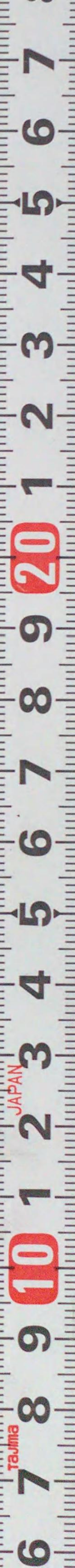
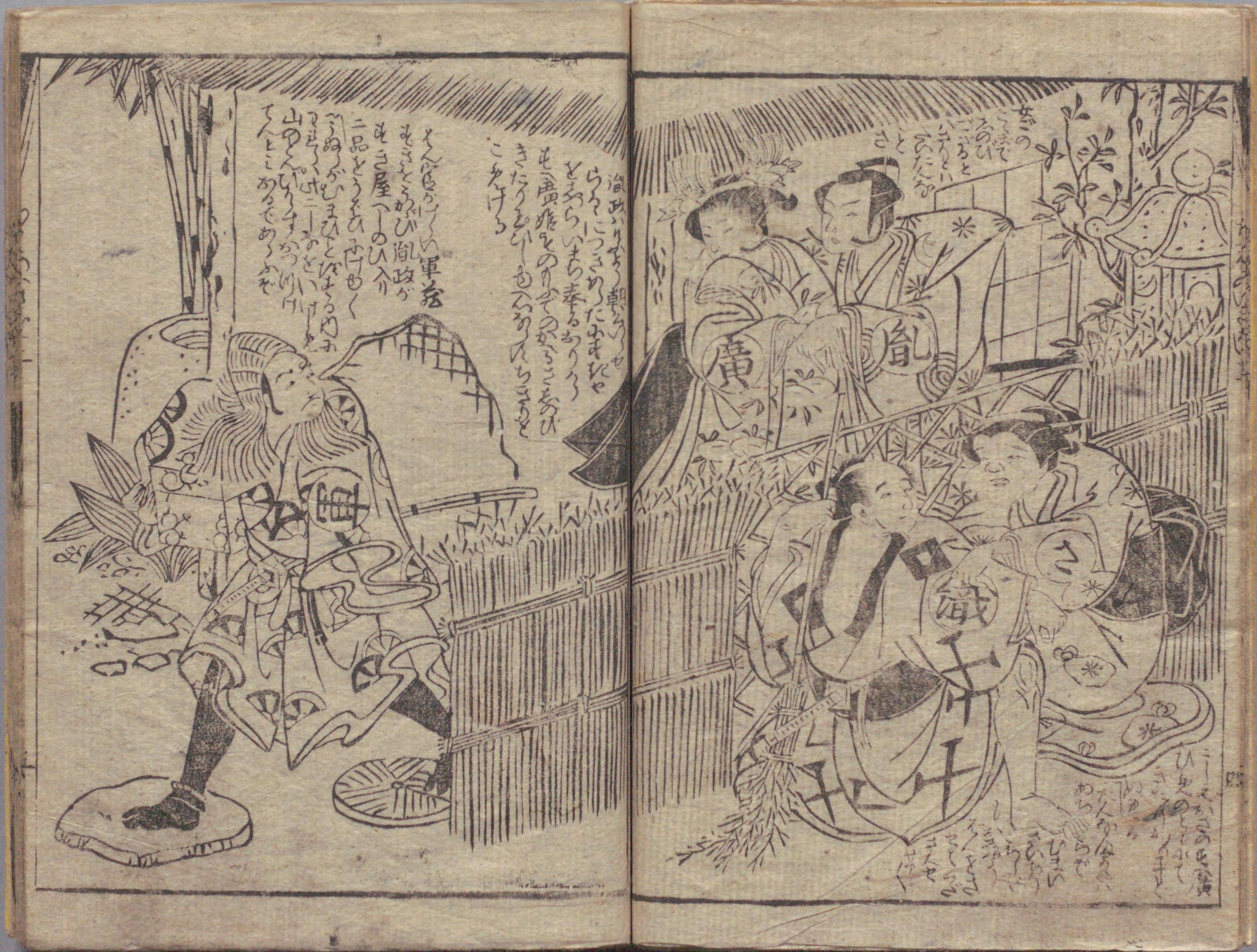


撰者 鈴木吉路
画工 意川春町
（印）











德行
 各物
 干
 兵衛

乱政
 干
 兵衛



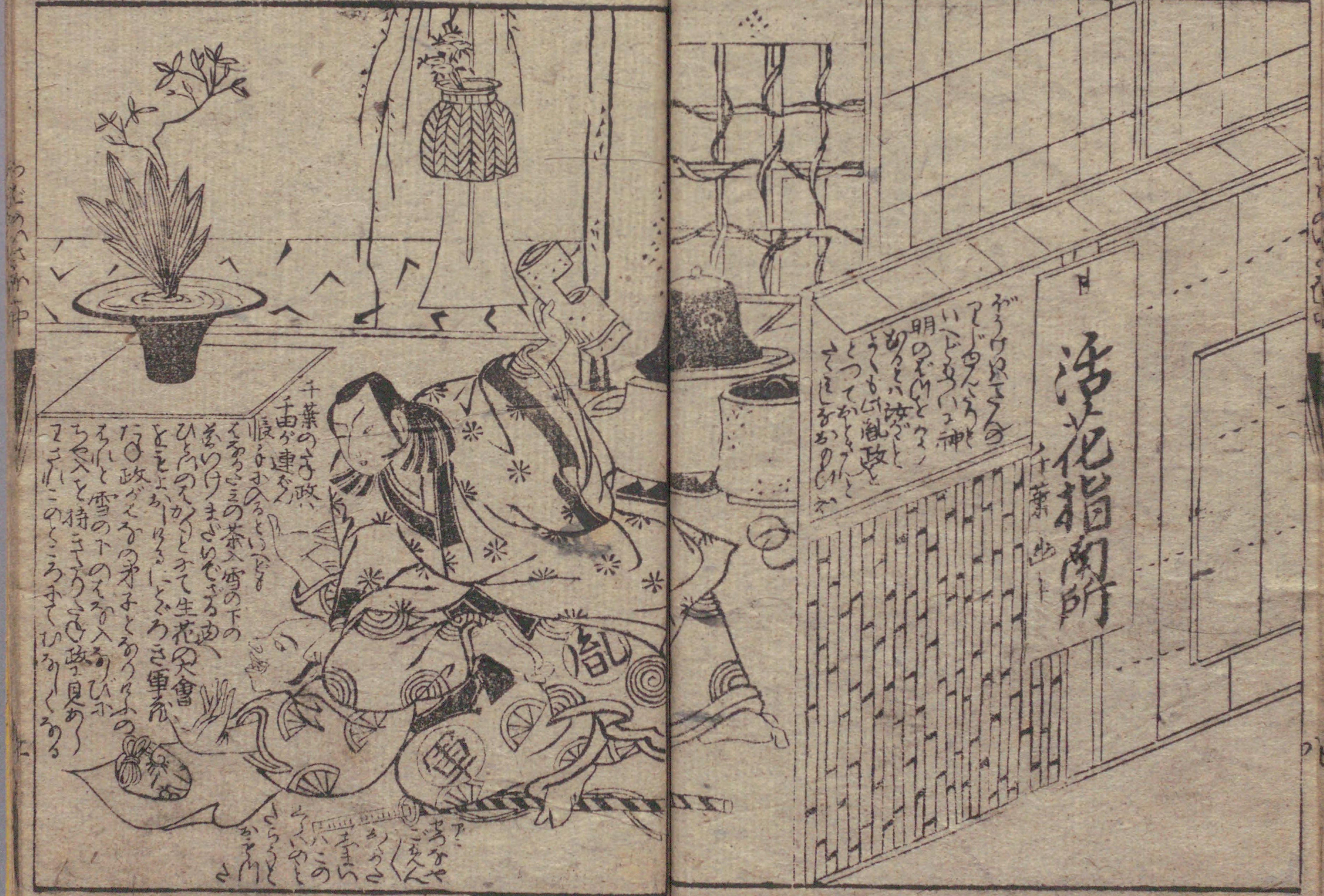
乱政
 干
 兵衛

乱政
 干
 兵衛









千葉の女子政
 千由が連を
 懐かお入るといふ
 くらり三の茶入雪の下の
 茶のけりまがれむさるめ
 ひとのえかりとて生花の天會
 とよよあけらるにくらりさ軍を
 ちの政ぐんかの才子とあつたの
 ろいと雪の下のそち入あひホ
 ち入と持さりさの政は良あ
 又こいこのくらりまていあくる

かうけい
 せいじん
 いとま
 明のそ
 めもは
 うもは
 とつて
 てはさ
 のひ

活花指肉所
 千葉出

あつた
 こい
 くらり
 まて
 いあ
 くる





妙見守

ちを父に頼朝公より千田の
 人佐がうつもびらうつらうが
 ひとこのめだてにあらは
 神力をうけうらたひげんと
 日ころ移んぬるところの

ミヤウ見大がうつのもぞんか
 けう父かむべさうさひけ
 人たんとくせん
 いのり
 (Miyomi)

千葉の女
 常胤

同胤
 胤政



たの政そつとひまをさう
 朝公より頼朝公より
 千田が埋てく懐か
 きて此條の空の時
 政がや所ふい
 いささう
 二ひまが時
 政が頼朝
 公の
 千田の

八千葉
 時
 胤政
 胤政

千葉の女
 常胤
 同胤
 胤政





まの廣姫
かこのまのこころ女と
あつちの
軍兵
あざむ

山判官泊

ちだの判
まのこころ女と
あつちの
軍兵
あざむ

あつちの
軍兵
あざむ



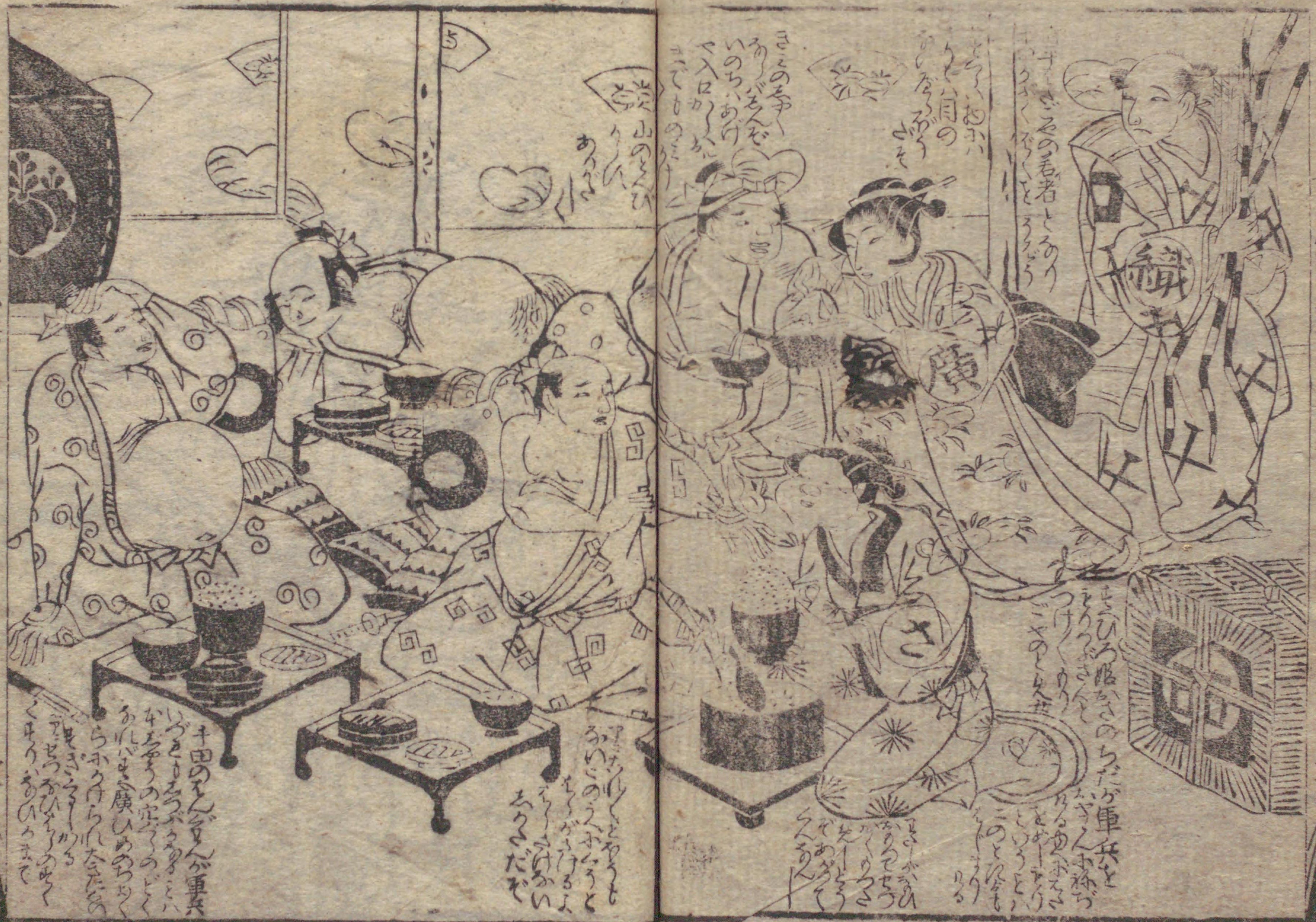
千本の次父子で
うらむ
せし
並やたし
さうたん
あつちの
まのこころ女と
あつちの
軍兵
あざむ

仁

あつちの
軍兵
あざむ

あつちの
軍兵
あざむ





千田のせんざんが軍兵
いづれもつづぶる身とハ
かまきりの定々のどく
あはれも廣しめめめめ
らおけられなたあ
あまのうらみか
あまのうらみか
あまのうらみか

あまのうらみか
あまのうらみか
あまのうらみか
あまのうらみか

さこのき
あまのうらみか
あまのうらみか
あまのうらみか

さこのき
あまのうらみか
あまのうらみか
あまのうらみか

さこのき
あまのうらみか
あまのうらみか
あまのうらみか

千田のせんざん

千田のせんざん









仁吉ももえ
ついでに
あつらふ

御朝
の
名

行徳無屋
のうんじん
舟橋の
駅女
千葉氏
代の
あつらふ

寒川古戦場
の
水とての
こまの
ちの
こまの
ちの
こまの



御朝
の
名

大申曰天作孽猶
可違自作孽不可
活

はてしなく
の
朝
の
名



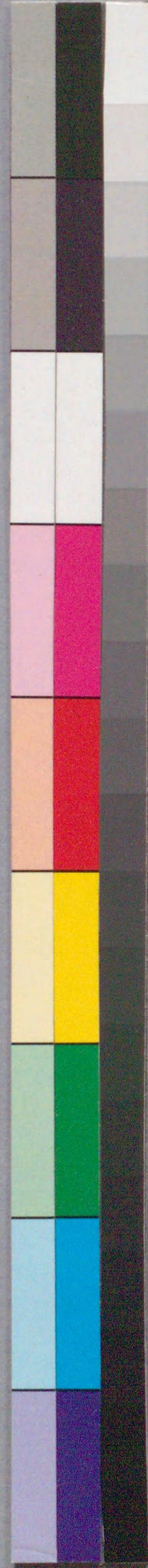
207
14



207
14

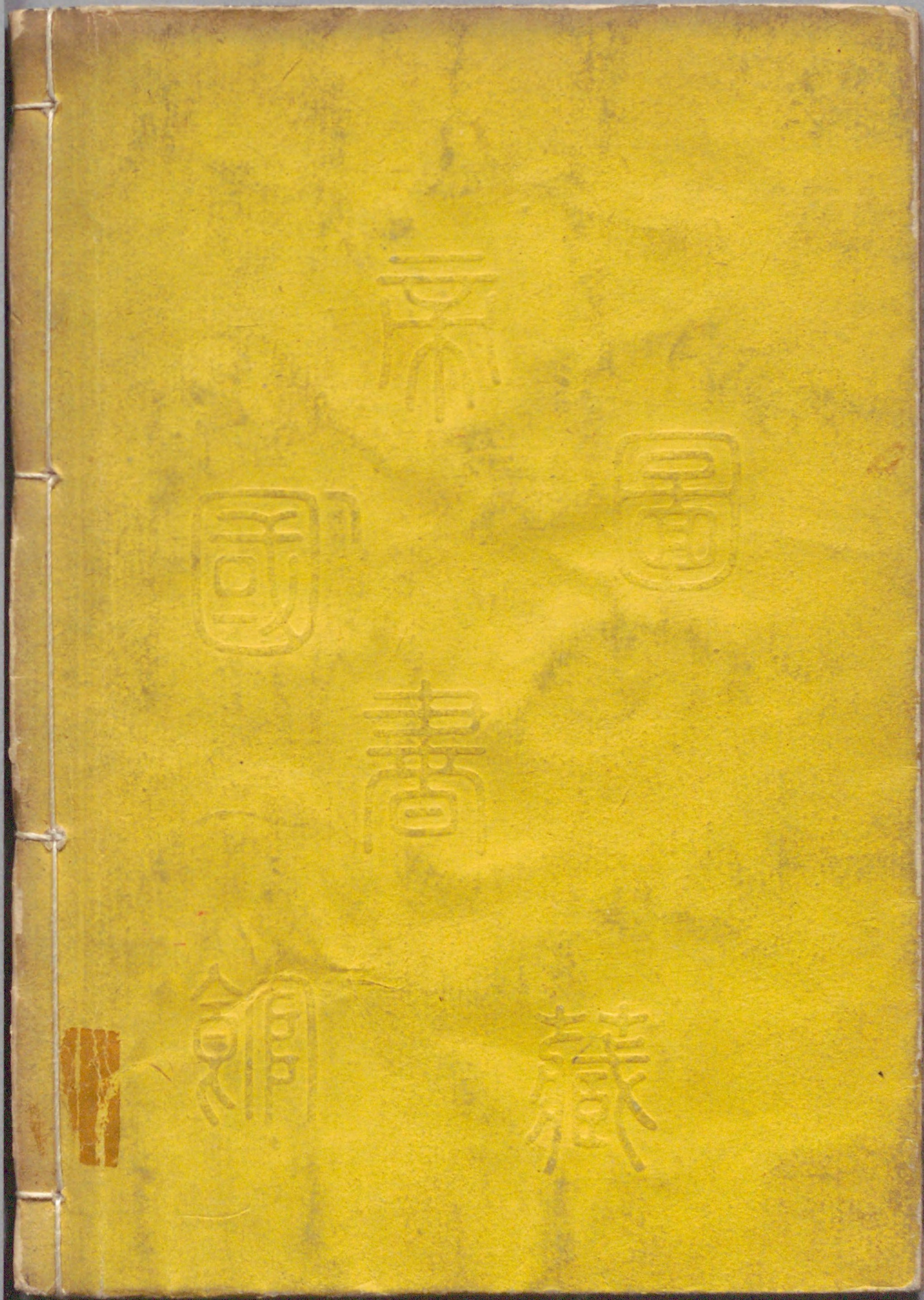
国立国会図書館 月星千葉功：3巻 207-14

ガラス使用





国立国会図書館 月星千葉功：3巻 207-14



ガラス使用

